水稲

水稲収穫後の次年度に向けての取組み

◎稲わらの早期耕うんによる効果

稲わらを早期にすき込むことで、地力増進、病害虫抑制、雑草抑制が期待できる

【地力増進効果】

近年、出穂期から登熟期が高温傾向にあり、後期栄養不足や稲体の活力低下による登熟不良を招き、品質低下の大きな要因となっています。そのため、稲わらすき込みや土づくり資材の施用により、〈地力増進〉が重要になります。また、秋にすき込むことにより、春のすき込みよりワキ（メタンガス、硫化水素）の発生が抑えられ根腐れ等の生育障害を軽減することができます。

〈すき込み時期〉

稲わらのすき込みは、収穫後できるだけ早く、地温の高い時期に、土づくり資材を散布後、実施して下さい。これは、稲わらの分解を担う土壌微生物は地温が15℃以下になると活性が低下するため、すき込みが遅くなると稲わらの分解が十分すすまないためです。

〈すき込み方法〉

稲わらの分解に必要な酸素供給や春先の土壌の乾燥促進等を考慮し、耕深は5～10㎝の浅うちとして下さい。湿田や冬期に湛水しやすい水田は、排水溝を作ります。

【病害虫抑制効果】

①いもち病

菌は被害わらで越冬して翌年の発生源となるので、いもち病が発生した圃場は、収穫後、速やかにすき込むことで、圃場で越冬する菌を抑制できます。

②ニカメイガ

ニカメイガの越冬虫は、稲わらに潜んでいますので、収穫後に稲わらをすき込み、幼虫が越冬しないようにします。

③紋枯病

菌株で越冬するので、早期に稲わらをすき込むことで、圃場内に残存する菌核を減少させます。

早期に稲わらを深くすき込む

注意

近年、紋枯病による倒伏の被害が多くなっています。今年度多発した圃場では、菌核が越冬し、次年度も発生することが予測され、品質と収量に影響を及ぼすので注意が必要です。このため、紋枯病に効果のある箱施用剤「箱いり娘」の散布や、予防・治療効果のあるリンバー粒剤による本田防除をしましょう。

紋枯病による被害（倒伏）

【雑草抑制効果】

オモダカ・クログワイ等の多年生雑草は、低温や乾燥に弱いので、耕うんにより塊茎を掘り出し、地表面にさらすことで、塊茎量を減らす効果があります。

オモダカとその塊茎

クログワイとその塊茎